会 議 録

会議の名称	令和7年度 第1回 池田市社会教育委員会議		
日 時	令和7年6月11日(水) 午前10時00分～12時00分		
場 所	池田市中心公民館会議室A・B		
出席者	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>《委 員》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤原 一秀 ◎ ・ 小倉 嘉夫 ○ ・ 中路間 美貴 ・ 布谷 知夫 ・ 古田 刺男 ・ 福島 輝彦 <p style="text-align: right;">計 6名</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>〈事務局職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤井教育長 ・ 小林教育部長 ・ 前野生涯学習推進室長兼社会教育課長 ・ 齋藤地域教育課長 ・ 家門中央公民館長 ・ 塚原図書館長 ・ 林石橋図書館長 ・ 細谷歴史民俗資料館長 ・ 國安社会教育課主幹 ・ 菊池社会教育課主任主事 ・ 大門社会教育課主任主事 ・ 田上社会教育課主任主事 <p style="text-align: right;">計 12名</p> </td> </tr> </table>	<p>《委 員》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤原 一秀 ◎ ・ 小倉 嘉夫 ○ ・ 中路間 美貴 ・ 布谷 知夫 ・ 古田 刺男 ・ 福島 輝彦 <p style="text-align: right;">計 6名</p>	<p>〈事務局職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤井教育長 ・ 小林教育部長 ・ 前野生涯学習推進室長兼社会教育課長 ・ 齋藤地域教育課長 ・ 家門中央公民館長 ・ 塚原図書館長 ・ 林石橋図書館長 ・ 細谷歴史民俗資料館長 ・ 國安社会教育課主幹 ・ 菊池社会教育課主任主事 ・ 大門社会教育課主任主事 ・ 田上社会教育課主任主事 <p style="text-align: right;">計 12名</p>
<p>《委 員》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤原 一秀 ◎ ・ 小倉 嘉夫 ○ ・ 中路間 美貴 ・ 布谷 知夫 ・ 古田 刺男 ・ 福島 輝彦 <p style="text-align: right;">計 6名</p>	<p>〈事務局職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤井教育長 ・ 小林教育部長 ・ 前野生涯学習推進室長兼社会教育課長 ・ 齋藤地域教育課長 ・ 家門中央公民館長 ・ 塚原図書館長 ・ 林石橋図書館長 ・ 細谷歴史民俗資料館長 ・ 國安社会教育課主幹 ・ 菊池社会教育課主任主事 ・ 大門社会教育課主任主事 ・ 田上社会教育課主任主事 <p style="text-align: right;">計 12名</p>		
欠 席 者	田中晋作 佐藤秀輝		
傍 聴 者	0名		
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和7年度 社会教育関係事業及び推進体制について 2. 少子高齢社会を豊かにする社会教育について 3. その他 		
配 布 資 料	資料1. R7 事業及び推進体制について 資料2. 池田市まち、ひと、しごと創生人口ビジョン 資料3-1. 社会教育は「超高齢社会」をどう捉えるか 資料3-2. 日本の青少年の社会参加の問題を考える		

議 事 経 過

開会

(教育長あいさつ)

正副議長選出

議長 藤原委員

副議長 小倉委員

(議長あいさつ)

議事 1 令和7年度 社会教育関係事業及び推進体制について

—資料1に基づき、各課、施設より説明—

委員 小中学校の図書室と市立図書館の司書連携は重要である。

委員 市民参加型の事業について、市民を募集して事業を進めているが、その参加者が自主的な活動へと発展させていけるようアドバイスすることが社会教育施設の仕事である。そういう方向を各施設が意識を持って進めていくべきである。

委員 社会教育施設の耐震化ができていないが、市民が集まる社会教育施設を優先して耐震改修すべきではないか。

事務局 なかなか予算がつかず、苦慮している。

委員 池田市としてもっと危機感を持ってもらいたい。

事務局 今まで小中学校を優先して耐震化をしてきた。社会教育施設をはじめ公共施設の建て替え、合体などの議論も含め、常に人が行き交うところなので、考えていかなければならないと考える。

委員 審議会のあり方についての提案だが、ただ事業の評価や審議をするだけでなく、これからは社会教育活動に寄与、提案し、専門的な情報を入れて職員と一緒に活動していく、活動を援助していく、そういう形を模索してもいいのではないか。

委員 地域ごとに小さな会館があるが、もっと活用していけないのか。講座など支援する体制ができないか。教育委員会が目を向けてやってほしい。公民館が遠く、近くにある会館であれば子どもたちも利用できる。

事務局 施設が市長部局と教育委員会所管に分かれ、また、指定管理者制度を導入している施設もあるが、もっと横のつながりをもって活用できればよいのだが。

委員 学童保育の指導員不足、研修などの状況は。また、ボランティアなど市民の活用は。

事務局 指導員の不足については、派遣職員や臨時雇用などで対応。今年度からキッズランドと学童保育を教育委員会で行うようになったことから連携をとることができるようになり、指導員研修や熱中症対策なども情報を共有しながら進めている。市民活用については、今年からキッズランドとして、各小学校の放課後に地域のボランティアに来てもらい、学童保育の指導員と顔見知りの関係を築きながら連携できる体制を構築。学童保育は1つの学校で10～20名の指導員を配置し、学校との連携もとっている。

委員 学童の指導員のシフトが固定していれば、求人も増えて充実したメンバーになると思う。

委員 子ども食堂については。

事務局 子ども食堂は市長部局の所管で、補助金制度もある。渋谷中学校など夏休みに単発で行っているところもある。

委員 子ども食堂という名前を使っていないが、子ども食堂としての活動を行っているところも市内にはある。

議案2 少子高齢社会を豊かにする社会教育について

—資料3により、少子高齢化と社会教育について事務局説明—

委員 池田に住んで良かったとの思いは、人とのネットワーク、つながりができ、地域の見守り活動などいろんな活動につながり、自分が地域に役立っているという感覚も生まれる。池田に住んで良かったという幸せ感をもたせることが社会教育である。子どもたちも、自分たちが住んでいるマチを知り、素晴らしいマチだったんだという誇りを持たせることが教育では必要だ。

委員 池田には古いものや色々なものがあり、それを高齢者をはじめ市民が案内できるような活動ができればいい。

委員 池田ではコミュニティスクールが増え、学校と地域とのつながりがあったが、社会教育施設とのつながりも必要。また、学校を1つのフィールドとして、地域の活動の発表や展示など人が集まるシステムを作るのも良い。そしてそれを社会教育でコーディネーター育成していくと活動が広がる。

委員 学校を応援し情報提供してくれる人がいると学校と地域がつながり、学校が豊かになる。また、人々が集まると自然とリーダーが生まれ、コミュニケーションが高まり、地域の活動に結び付く。その火付け役をどうしていくか、考えていかななくては。

委員 これからの社会教育施設は個々に事業をやるのではなく、ここ10年だが、MLAK連携が増えている。ミュージアム(M)、ライブラリー(L)、アーカイブ(A)、公民館(K)の連携で、共同計画を立ててやらなくてはいけない。また、市民に募集をかけて事業をやって終わるのではなく、参加した人同士が次の行動に進めるような活動をどうアドバイスしていくかが必要。ボランティアを広げる、信頼し任せることも必要で、例えば、企画展示の1コーナーを高校生にすべて任せてみるとか、そうしないと新しい活動が生まれない。実験的にやってもらいたい。

委員 喫緊の課題だが、中学校クラブ活動の問題があるが、高齢者だけではなく市民が関わり子どもたちと一緒に活動することが大事で、社会教育にとっても良いチャンスである。

委員 池田市と包括連携している大学をもっと活用したらよい。大学側も地域連携、地域貢献を重要視している。

議案3 その他

9月の近畿地区社会教育大会の案内

閉会